

のぞいてみよう！ せんだいの歴史 ゆかりの絵画編

離れて見たり、近づいて見たり  
— 榴ヶ岡花見図屏風の楽しみ方

仙台市博物館 副館長 樋口智之

第20回

宮城県指定文化財に

今回取り上げる「榴ヶ岡花見図屏風」は、仙台の桜の名所として知られる榴ヶ岡の江戸時代中頃の様子を描いた作品です。この地は4代藩主伊達綱村が釈迦堂を建立し、さらに馬場を設けたり桜を植えたりしたことにより、人々の行楽の地としてにぎわうようになりました。

実は本誌二〇一九年4月号にも掲載された作品ですが、昨年（二〇二五年）12月に宮城県指定文化財に指定された（指定名称は「躑躅ヶ岡花見図」）ことにちなみ、桜の季節を前にあらためてご紹介します。

離れて見たり、近づいて見たり

さて、屏風は画面が広いのでさまざまな表現が可能です。まず、モチーフを大きく存在感のあるものとして表すことができます。例えば山々を大きく描いた山水図屏風を見れば、目の前に雄大な景色が広がる心地がすることでしょう。一方、小さなモチーフをたくさん描き込むこともできます。京都の市街や郊外を空から俯瞰して描いた洛中洛外図と呼ばれる屏風絵



榴ヶ岡花見図屏風 仙台市博物館蔵



同 部分



同 部分

楽しい宴があちこちで

などには、人物や建物がたくさん表され、そこに人々の営みや風俗を垣間見ることができます。こうした屏風は離れて全体を見渡した後、近づいて部分をよく見ると一層面白く感じられるものです。

「榴ヶ岡花見図屏風」もまさにそのような作品です。天神社や馬場などが配された榴ヶ岡の景観を一望に収めた後、近づいて部分を目を凝らすと、かれんな花を咲かせた枝垂れ桜のもと、緋毛氈（赤い敷物）を敷き、酒や料理を味わい、踊ったり、手

をたいて拍子をとったりと、楽しい宴があちらこちらで繰り広げられているのを見いだせます。人々の様子は生き生きとしていて、にぎやかな会話の声や三味線の音などが画面から聞こえてくるようです。

このように本屏風は江戸時代の仙台の景観や人々の様子、風俗をうかがい知ることのできる貴重な作品であり、このことが県指定文化財に指定された一つの理由となったようです。

仙台市博物館では、常設展で本年3月17日から6月21日まで本屏風を展示する予定です。ぜひ足をお運びいただき、離れたり近づいたりしながら、その魅力を感じていただければ幸いです。

今回紹介した作品は仙台市博物館 ホームページの「収蔵資料データ ベース」からご覧いただけます。



次回から新連載「仙台藩のお城編」がスタートします。

わくわく！

冬こそ

博物館

2025/12.23

- 2026/3.22

くわしくは、博物館のホームページをご覧ください。

仙台市博物館で過ごす  
ちょっと特別な時間。

今だけの展示、  
季節のイベントなど、  
冬も楽しい企画が満載です。

〒980-0862  
仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)  
TEL:022-225-3074 博物館X:@sendai\_shihaku

【観覧料】一般・大学生460円、高校生230円、小・中学生110円  
【開館時間】9:00~16:45(入館は16:15まで)  
【休館日】毎週月曜日